

グローバル通信

長崎県立口加高等学校グローバルコース 第2号 平成30年6月15日

フィールドワーク「南島原を知る」(2期生)

6月12日(火)にグローバルコース2期生(1年生)が、探求型学習の一環としてフィールドワークを行いました。島原ジオパーク協議会理学博士である大野希一先生のご指導のもと、「歴史・現代の生活・地球環境」の深い繋がりについて学ぶことができました。大野先生の発する「なぜ?」という問いに、生徒は新たな発見の連続だったようです。

○南島原市有馬キリシタン遺産記念館



グローバル生の感想↓

・島原の乱の原因が、領主が課した重税とキリシタンの弾圧ということは把握していたが、大野先生が言われたとおり、歴史的背景を深掘りし、「もしこれがなかったら…」と考えたり、自然環境とリンクさせてみれば、郷土史に対する見方が面白くなっていくと思った。今自分が考えている一つのことだけに焦点を当てて物事を考えていくのではなく、様々なものとリンクさせて考えていけば視野が広がり、知る喜びを感じることができると思う。

グローバル生の感想↓

- ・フィールドワーク前は、原城跡の地形や島原・天草一揆のことについて、深く追求することはしませんでした。フィールドワークで学習した後は、原城跡の地形は「どうやってできたのか?」や、一揆は「どうして起こったのか?」など自分で疑問を持ち、その疑問を追求していくという考え方に変わりました。こうした姿勢は、新しい発見にもつながるので、大切なことだと思います。
- ・原城の見方が完全に変わりました。原城は島原・天草一揆があったことしか知りませんでしたが、今は、過去に阿蘇山が噴火し、それによって高台ができ、高台があったから原城ができたということがわかりました。

○原城地層見学



○貴船神社



事実：貴船神社は、「雨乞い」のための神社である。

↓「なぜ？」

南島原市の地層には隙間が少なく、水が地下にしみこみにくい。そのため、雨水は川となって地表をつたい、海へ流れ出てしまう。陸地に貯まる地下水の量が少なくなり、水不足になる。そこで、人々は雨乞いのための神社を作った。地域のコミュニティ作りにも大変役立った。

○深谷（ふかだん）橋



事実：深谷橋は、「石橋」である。

↓「なぜ？」

南有馬と口之津を結ぶ深谷橋は、地域間交流を維持するために重要な橋であった。そのため、人々の往来も激しく、頑丈な「石」で作ることが必要であった。また、南島原は石材が豊富であり、材料を調達しやすかった。結果、大正時代に作られたこの橋は、東京オリンピックの影響で国道が整備されるまで、交流の要となった。

次回のフィールドワーク（7月3日）は、**グローバル生が自分で行程を考えます！**
自らの課題意識をもとに、活動内容を作成します。どんな活動になるのか楽しみです。